

教育研究業績書

令和4年5月1日 氏名 巢立佳宏 印		
研究分野	研究内容のキーワード	
社会科学	児童福祉 発達障害 保育者	
教育上の能力に関する事項		
事項	年 月	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書・教材		
3 教育上の能力に関する大学等の評価 「令和元年度群馬医療福祉大学前期授業評価アンケート」	令和元年9月	保育実習、保育教職演習など実習指導に関する科目にて、学生の授業評価アンケートにおいて高い評価を得た（授業内容に満足している生徒が8割以上を占めた。）
4 実務の経験を有する者についての特記事項 セーリング大会ワールドカップにて展示ブース参加（学生引率）	平成30年8月	学生を引率し、江ノ島にてヨット製作体験を行った。ビニールプールに水を入れ、紙皿やストローで幼児や保護者と学生が“ヨット”を作成することを援助した。
前橋市七夕祭りに参加（学生引率）	令和元年7月	前橋市観光振興課と連携し、学生と共に会場設営および子ども向けの展示ブースを設置した。学生と共に来場した保護者や子どもと関わった。
社会福祉法人あそか会 あそか祭りに参加（学生引率）	令和元年10月	知的障害や精神疾患を有する方々の地域交流イベントに学生と共に参加した。学生が対応に困難を有する場合には援助を行った。
群馬医療福祉大学附属認定子ども園鈴蘭幼稚園クリスマス会に参加	令和元年12月	附属幼稚園におけるクリスマス会に学生と共に参加し、子どもたちの演劇の補助や対応を行った。また、教員がサンタ役として園児らと交流を図った。
前橋市すくすくおやこスクールに講師として参加	令和元年12月	乳児と保護者ら計40名に対して「親子で楽しむ運動遊び」を実施した。実践的な乳児の運動に関して音楽に合わせ、どのように遊びを通して行うか指導・助言した。
5 その他		
職務上の実績に関する事項		
事項	年 月	概要

様式第4号（教員個人に関する書類）

1 資格, 免許 訪問介護員 2 級養成研修課程 修了 保育士資格 幼稚園教諭 I 種免許 認定心理士	平成 22 年 8 月 平成 23 年 3 月 平成 23 年 3 月 平成 23 年 3 月	(千葉県-041616) (平二幼一第三四三号,教員免許更新講習未受講) 第 34580 号 取得
2 学校現場等での実務経験		
3 実務の経験を有する者についての特記事項 児童養護施設において施設職員を対象にペアレント・トレーニングを実施（～平成 25 年 3 月まで,計 9 回） "埼玉県熊谷市大幡幼・小・中連携保護者会にて講師として参加（独演）" "埼玉県熊谷市民生委員・地域相談員研修会に講師として参加（独演）「巡回相談の役割とは」" 日本社会事業大学「効果のあがる就労移行支援プログラムのあり方研究会」に所属（～平成 27 年 3 月まで） "平成 26 年度埼玉県熊谷市適応指導教室保護者会に講師として参加。" 平成 27 年度埼玉県熊谷市適	平成 24 年 7 月 平成 25 年 7 月 平成 25 年 10 月 平成 26 年 4 月 平成 26 年 10 月 平成 27 年 10	児童養護施設職員を対象に定期的にペアレント・トレーニングを実施した。幼児及び児童（青年期）までの各発達段階に合わせ、個別の子どもへの課題設定の仕方や対人関係のスキルをどのように向上させるか施設職員と検討を行った。その結果、職員が子どもの学習への動機付けや集団に参加する力の高め方について学び、心理的な変化も現れた。実施前後での職員の変化を立正大学社会福祉学部紀要へ投稿し、掲載された。 演題「保育・小中学校をつなぐ教育相談～発達障害児の理解と対応～」 具体的に幼児期～青年期までの発達段階、発達障害に関する理解について講演した。また保育士、小学校教諭、中学校教諭が子どもやその家庭、外部機関との連携方法、近年の社会的な保育、教育に関する課題について講演した。保幼小中連携であり、近年の主体的・対話的で深い学びに結びついている。 さらに各学校での子どもへの話法、板書、授業の展開方法、教材の設定に関しても指導および検討を行った。 演題「巡回相談の役割とは」地域が行う家庭への支援について講演。外部機関との連携方法について、特に指導、助言を行い、子育て家庭への支援方法について検討した。 就労移行支援プログラムのあり方研究会に参加し、全国規模でのアンケート調査やワークショップの開催などに関与した。 不登校児童の保護者に対し、相談・助言を実施。家族造形法を用い、母子間の交流を促すグループワークを実施。子どもへの話法、課題の設定、ほめ方に関しても指導および検討を行った。 不登校児童の保護者に対し、相談・助言を実施。家族造形

様式第4号（教員個人に関する書類）

応指導教室保護者会に講師として参加。	月	法を用い、母子間の交流を促すグループワークを実施。子どもへの話法、課題の設定、ほめ方に関しても指導および検討を行った。
大間々北小学校の就学時健康診断において「子どもへのかかわり方」をテーマに講演	平成28年9月	子育てに関するペアレント・トレーニングのスキルを紹介し、グループワークなどを実施。家庭への子育てにおける支援方法を指導・助言した。具体的に子どもへの話法、自宅での教材の設定、ほめ方、叱り方に関しても指導および検討を行った。
埼玉県鴻巣市就学支援委員会に心理士として参加。	平成29年4月	市内全域の特別な配慮を要する児童への支援について心理的側面からの助言を行った。
埼玉県鴻巣市立小谷小学校の職員研修会にて講師に講師として参加	平成29年8月	具体的に知的障害、発達障害、学習障害などを有する児童への対応について講演。小学校における主体的・対話的で深い学びにつなげる学校での発達障害児への話法や板書、教材・教具の設定、学習形態、席次など実践的な指導方法について検討した。特に教員同士のグループワークやディスカッションを通して実践的な理解を深めた。
横浜保育福祉専門学校総合学科夏季公開講座に講師として参加。	平成30年8月	高校生を対象に「保育の心理」について講義を行った。
前橋市まちなかキャンパス講座に講師として参加。	令和元年9月	「フラワー曼荼羅ぬり絵～心身の健康と脳の活性化～」を実施。
埼玉県本庄市北泉保育園にて保育アドバイザーとして事例検討会、職員研修会（保育場面において対応が困難な児童への対処法）を実施。	令和元年10月	保育園にて対応が困難な児童に関する事例検討会を開催。保育園における子どもへの指導方法の検討、対応が困難な子どもへの対応についてグループワークなどを通して理解を深めた。小1プロブレムなど、予見される就学時の問題、発達障害、異食、逃走など様々な問題について検討し、対応方法を指導した。
"群馬県教育委員会主催「高校専門教育研修講座」に講師として参加。"	令和元年11月	高校に勤務する教員を対象に「交流活動における児童生徒理解やコミュニケーションに関する技術や知識2」について講演。小学校や保育園での交流活動を例に上げ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方に関して講じた。具体的に幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿から保育士がどのように環境設定などを行い保育しているのか講じた。また、グループワークやディスカッション、ロールプレイなどを通して、理解を深めた。
東松山市令和2年度幼保小連絡会に参加	令和2年11月	コロナ禍で三密を避ける中でいかに子どもの心を育て、他者との関係を築いていくか現場の保育園、幼稚園、小学校

様式第4号（教員個人に関する書類）

令和3年度山村学園短期大学 公開講座「フラワー曼荼羅 ぬり絵」	令和3年12月	の先生方と検討を行った。検討結果を話し合い、各グルー プが発表を行った。 巣立は発表終了後、全体への講評を行った。			
令和3年度東松山市保育士研 修会「気になる子、保護者 との接し方～発達障害への 理解と対応～事例を通し て」	令和3年12月	東松山市内の保育士・幼稚園教諭 42 名に対して、発達障 害に関する研修会を行った。発達障害に関する講義および グループワークを行った。実際に園で困っている事例など を取り扱い、具体的かつ実践的な対応に関する助言も行っ た。アンケート結果から「大変良かった」および「まあま あ良かった」が 36 名、「普通」が 4 名、「未記入」が 2 名 であることがわかり、非常に満足度の高い結果となった。			
4 その他					
担当授業科目に関する研究業績等					
著書、学術論文 等の名称	単著 共著	発行 年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	執筆ページ数 (総ページ数)	概 要
保育者養成教 育の課題と解 決に関する研 究—5 歳児に対 する保育実践 観察調査にお ける「言葉」「人 間関係」中心に—	共 著	令和4年 3月	教 育 実 践 年 報 No.5 星 槎 教 育 実 践 研究会	28 ペー ジ	保育者としての「あるべき姿」に関して検討を行 うため、保育士・幼稚園教諭を養成する学生が 5 歳児を対象に保育実践を行った。また、保育を実 践する環境を学生と子ども達が協同して作成し、 全面を青色に塗った壁の部屋の中で「海」をテー マに実践した。その後、保育実践の様子を“保育 実践評価票”を用いて、得点の高かった箇所や低 かった箇所に関して検討を行った。そして、保育 内容「言葉」、「人間関係」の観点から、考察を行 った。
保育内容「環 境」と「表現」 につながる“秘 密基地づくり” 遊び—自然と 関わる学び—	共 著	令和3年 3月	山 村 学 園 短 期 大 学 紀 要 第 31 号	9 ペー ジ	5 領域の中でも特に「環境」「表現」に着目し、学 生と教員による協働して行う“秘密基地づくり” を通して、保育における自然との関わりの重要性 について検討したものである。 具体的には授業内にて学生と教員が協働し“秘密 基地づくり”を行った。制作過程において①フィ ールドワークの重要性、②自然との触れ合い、③ 協同性、④事前の計画の重要性が学びとして考え られ、保育内容における「環境」及び「表現」の 観点から考察を行った。
「実践事例で 学ぶ 10 の姿と 生活科」	共 著	令和2年 4月	株 式 会 社 大 学 図 書 出 版	8 ペー ジ	「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」に おける「自立心」と生活科がどのように関連され ているか論じたものである。 具体的には保育に関する専門的知識及び技術に

様式第4号（教員個人に関する書類）

（査読付き） 遊戯療法における子どもの退室渋りに関する検討 - 児童養護施設の遊戯療法を中心に -	単著	平成 28 年 3 月	福 祉 心 理 学 研 究 第 13 巻 第 1 号	11 ページ	について論じ、実際の保育現場の中で様々な視点から 10 の姿における自立心と小学校課程における生活科に関して論じた。結果として家庭の理解と連携、地域との連携、現代的な課題と結びつけ、主体的・対話的で深い学びに関しては具体的な事例を通して理解できるよう論じた。保育における実践的な学びを深めることができる。 児童養護施設での遊戯療法において子どもが心理室から出て行かない退室渋りという行為に着目し、検討した。子どもの乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達の知識について具体的に理解していることを前提条件として論じている。 そうした知識を有している児童養護施設心理士 9 名に対してインタビュー調査を行い、(M-GTA) 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた。この結果、「心理面接終了から子どもの退室までのプロセス」という仮説を生成し、考察した。 これはトラウマや社会性、認知発達に課題を抱える被虐待児への実践的な対応方法について、わかりやすく図式化、可視化し、明らかにした。
遊戯療法における制限破りの問題 - 児童養護施設における被虐待児の遊戯療法を中心に -	単著	平成 25 年 3 月	立 正 大 学 大 学 院 社 会 福 祉 学 研 究 科 修 士 論 文 集	10 ページ	児童養護施設における遊戯療法について、文献検討および調査研究を行った。そうした中で児童養護施設に暮らす乳幼児期から青年期の子どもの各発達段階における心理的特性を踏まえ、どのように支援するべきか論じた。 次に遊戯療法における制限について文献研究を行った。そして修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ (M-GTA) を用い、遊戯療法における心理士の子どもへの対応について仮説を生成した。この結果、児童養護施設に勤務する心理士が対応に困難を感じる子どもの制限破りと呼ばれる行為について検討した。こうした遊戯療法を通して、子どもの発達に関する代表的理論を踏まえ、具体的にどのような支援を行うことでトラウマや社会性、認知発達に抱える被虐待児への実践的な対応方法について論じた。
児童養護施設におけるペアレント・トレーニングの実態	単著	平成 26 年 3 月	立 正 大 学 社 会 福 祉 学 会, 立正 社 会 福 祉 研 究 紀 要 第 15 巻 2 号	9 ページ	保育士の養育スキルを向上させるペアレント・トレーニングを児童養護施設職員に実施し、アンケート結果から分析、考察を行った。実施内容に関しては職員が主体的・対話的で深い学びを得られるようグループワークを常に行い、具体的な子どものほめ方や評価の視点について学習し、予習や復習、課題、目標設定を通して養育スキルを向上させるものである。その結果、職員自身が子どもへの「処遇の見直し」に関する意識の向上、職員間の連携や協調性の高まりが明らかとなった。ま

様式第4号（教員個人に関する書類）

児童養護施設における男児へのプレイセラピー過程	単著	平成27年3月	埼玉工業大学臨床心理センター年報第9号	8ページ	た、子どもへの支援方法を向上させるペアレント・トレーニングの有効性が示された。 子どもの発達段階における心理的特性について理解し、障害、精神疾患、家族構成などを含め、学校や施設での問題解決に向けたカウンセリングを行った。具体的に主体的学習を支える動機づくりや集団への参加の仕方、過去のトラウマに起因する精神症状の改善を目標に行ったカウンセリングについて論じた。
児童養護施設における遊戯療法～関係性の変化に着目して～	単著	平成28年3月	埼玉工業大学臨床心理センター年報第10号	5ページ	児童養護施設に入所する男児に対してプレイセラピーを4年4ヶ月行った。男児が成長するに連れ、各発達段階に応じて代表的な理論や集団への参加の方法、母子関係の再構築などプレイセラピーを通して、様々な関係性の変化について論じた。
その他 平成23年度研究報告書「児童虐待に関する文献紹介（2008・2009）」 効果的障害者就労移行支援プログラム全国試行評価調査を通じた効果モデルの改善と実践家評価者の形成・育成～全国試行評価調査とその準備活動の経験からの示唆～	共著 共著	平成24年8月 平成27年3月	子どもの虹情報研修センター 文部科学省・科学研究費補助金基盤研究（A）「実践家参画型効果的プログラムモデル形成プロジェクト」、実践家参画型効果的	5ページ	「青少年の治療・教育援助と自立支援一虐待・発達障害・非行など深刻な問題を抱える青少年の治療・教育モデルと実践構造（土井高德,2009）」に関する文献レビューを行った。 ○巢立・執筆箇所（pp35-39 総5頁） 就労移行支援事業をより効果的にするために開発された「効果的障害者就労移行支援プログラム」について、プログラムの効果を検証するための介入研究が実施され、その成果と成果から得た示唆を整理した。 ○巢立・報告書作成にあたって全体的な編集作業に関与した。

様式第4号（教員個人に関する書類）

知的・発達障がい児を対象にした効果的なピアノレッスン・プログラムの構築に関する研究～プログラム評価の理論と方法論を活用して～	共著	令和元年8月	プログラムモデル形成評価班（研究代表；大島 巖） 平成30年度公益財団法人俱進会助成事業（研究代表；新藤健太）		知的・発達障がい児へのピアノレッスンをより効果的にするためのプログラム理論と評価方法の作成を行った。発達障害を有する児童への心理的特性などを踏まえ、ピアノを媒介とした授業・保育形態、教材の準備など様々なピアノ教室の取り組みが、どのような影響を及ぼすかアンケート調査を用いて論じた。 ○巢立・アンケート調査および分析作業に関与した。
学会発表					
愛着関係が及ぼす発達への影響～児童養護施設において～	単著	平成22年11月	立正社会福祉学会・ポスター発表		反応性愛着障害と広汎性発達障害のDSM-IV-TRにおける類似点について検討した。また児童養護施設職員にインタビュー調査を行い、愛着関係が子どもの発達に及ぼす影響について発表した。
被虐待児の遊戯療法における制限の問題	単著	平成23年11月	立正社会福祉学会・口頭発表		児童養護施設にて被虐待児を対象に行われている遊戯療法について検討した。特に制限の問題に着目し、遊戯療法においてどのような意味を持つか発表した。
遊戯療法における制限破りの問題 - 児童養護施設における被虐待児の遊戯療法を中心に -	単著	平成24年11月	立正社会福祉学会・口頭発表		児童養護施設で行われている制限破りについて着目した。特に退室渋りという子どもの行為に着目し、初心の心理士がどのように対応するかインタビュー調査の結果を発表した。
児童養護施設における反応性愛着障害について	単著	平成23年10月	日本子育て学会・ポスター発表		児童養護施設において反応性愛着障害を有する児童に対してどのような対応を行っているかインタビュー調査を通して検討し、発表した。
児童養護施設におけるペアレントトレーニングの実践	単著	平成25年11月	立正社会福祉学会・口頭発表		児童養護施設において、精研式ペアレント・トレーニングを実施し、職員にどのような影響を及ぼすか検討した。アンケート結果を用いて、実施する上での課題についても検討し、発表した。

様式第4号（教員個人に関する書類）

遊戯療法における子どもの退室渋りに関する検討～児童養護施設の遊戯療法を中心に～	単著	平成 26 年 7 月	埼 玉 工 業 大 学 第 12 回 若 手 フ ォ ー ラ ム ・ 口 頭 発 表	児童養護施設での遊戯療法において,子どもの退室渋りという行為に着目した。 具体的にはある県内に勤務する児童養護施設心理士 9 名に対してインタビュー調査を行い, (M-GTA) 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた。この結果,「心理面接終了から子どもの退室までのプロセス」という仮説を生成し, 発表した。
効果的プログラムモデル形成のための実践家参画型評価アプローチ法の開発(その 7) ～効果モデル改善ステップにおける「全国試行評価調査(1年間の提示版プログラム試行評価調査)」の位置とその検証	単著	平成 27 年 5 月	日 本 評 価 学 会 第 12 回 春 季 全 国 大 会	効果的障害者就労移行支援プログラム形成評価の取り組みを取り上げ, 効果モデルを段階的に形成していくステップ(改善ステップ)における全国試行評価調査(介入研究)の位置とその有効性について考察した。 ○巣立・学会発表に向けて, 発表内容などの検討に関与した。